授業準備の工夫・経験(若手研究員むけ。メモ的)

1 序論：授業と演劇との対比。経験と先人の工夫の集積・改善を目指して

時々「よい授業はよい演劇に似ている」と聞く。なるほど、演劇での役者は事前に練習や通しを何度もし、日々から体力づくりをし生活の一部にする。役者は聴衆の存在を常に意識し、十人十色な感性と受け止め方を配慮しながら、本番に向け懸命になる。発声も視線もセリフ記憶力や臨場感も客いじりも大事。準備量や創意工夫や奇抜性を頑張れば演出効果と好評価が上がる。そもそも台本(指定教科書!?)のチョイスも鍵である。裏方仕事(受付や事務員も込み)も沢山ある。そして内容も大事だが、もっとも聴衆の後味や演技者の達成感が評価になる。良い出来前なら、何回も使い回せる。努力は実るが、所詮は、参加聴衆だけが数十分内に感じ、跡形もなく刹那で終わる(事には感慨深さがある)。以上の様に、演劇での工夫や技や交流現場には、授業に役立つ点が多いだろう(アリストテレス[詩学]でも読む?)。

しかし大学教員の授業はとなると、演劇の基本すらなっていない場面を私でも感じる。とりわけ演劇と似てない点として、演劇役者になるには自分の位置づけを時間かけ考えて自主的に役者になり演劇集団に所属するが、一方で、大学教員の多くは社会と隔離した研究室缶詰でヒタスラ研究や自己研鑽に励んだ経験しかなく、学位をとったら教育や授業など考える間もなく、(練習も訓練もせず)だしぬけに授業をやる派目になる。また、授業とは各講師の能力や態度などに委ねられた一人芝居であり、共同作業でもない(但し失敗やトラブルは連帯責任)。加えてカリキュラムやシラバスの明文化もあり、(受け手に投げ槍にする)前衛的で掴みどころもない多義的でヌルとした授業はよくない。そして各職場でそうだが、やる気と教育素質も人に多彩なバラツキがあり、その付き合いと調整もある。逆にもし講師個人がやる気が教育熱だけあっても、急転直下の変化や想定外の対応が難しく、準備(時間)も不十分で若手の未熟な能力値も兼ね合い、大根役者へと滑りこける。経験不足や不安や自信のなさ(学生にも未熟者にも見抜かれる)。要は、駄目な授業とは、練習不足で聴衆に失礼で、かつ、つまらん笑劇・あきれ喜劇に分類されてしまう(授業とは愁嘆場なき厳しい現実!)

さて、授業を突然投げ出された若手新星は先ず何をすべきだろうか?この思いで、本稿を書いた。そもそも、無難な授業とは、既知事実が講師を媒介にし、学生に伝えれば良いだけの事である。故に、良い授業には革新性も(前衛)芸術性も奇抜さも必要なく、スーパー講師の様なカリスマ性や人間くささ等も新米講師に求められる。要するに、“良い授業”とされる諸所の工夫と経験と前例に意識を鋭くもち模倣し、それらを有機的に融合し人工集積させればよい。考えてみれば、われわれ大学関係者は約6歳から20前半までずっと授業を受けてきて経験豊富なはずである。だから自分の内側や過去を整理する事で、舞台効果を内在から抽出し、誰でも無難な授業が出来るものだろう。そもそも教育は人類の歩みと叡智を(困難を共有させず)簡略型でなぞり伝えるものであろう([授業の名言]でも読む?)。そして教育史や演劇史のとおり聴衆に付度し、ただただ心地よく満足させ、くり返せばいいのである。

ただし無難な授業への工夫うんぬんは、必要項目が余りに多すぎ、職場や学校によって大きく違い、難題はつきもの。その諸項目には要約や整理が少ないうえ、有用な一般論や常套手段や美辞麗句も少なく、個別問題の解決力もあると限らない。また理系の大学教員にあわせた授業準備の本もリストも少ない(あっても軽薄か特殊過ぎかも)し、若手に自分で整理するのも時間が掛かる。白鳥の水面下のごとく馬脚を露さず、たんと孤独に準備しないとイケない。故に若手の負担は(共有性もなく)倍増する。

そこで本稿は、これらの必要事項や工夫をテーマに、壮年の私が行った経験談や対策工夫を羅列する事にした。但し羅列の中から読者個人に見合ったものだけを採用して活用すればよい形にした。もしこれらが上記の必要項目に該当し、実用化できれば成功だろう。しかし、水面下の話題のためか、意図や収束先がわかりづらく結論や対策もない項目も多い。教育効果に実践的に有効かも不明である。ただ思うのは我々は「羅列的やり方と現場的柔軟性こそ教育!」との開き直りが許される業界であるので、本稿の記述形式も許されると信じていい。劇でも、理屈やモットーの綺麗ごとだけで上手く成功せず、むしろ現場実践と反省と接客対応などの反復的運動を自主的に目指し遂行する事で、具体的な凡事徹底で改善に向かうだろう。そう、改善は講師の自由意志の側にある。そして「無難」から良き授業へと徐々に変容する。以上より、よい講師やしたたかな教育者に

求められる器宇壮大さと伸びしろを読者にもこいねがい、そういう志たかき篤学者に特に本稿を読んでもらいたい、思う次第である。 2022年11月しるす

目次

1	序論：授業と演劇との対比。経験と先人の工夫の集積・改善を目指して	1
2	大学教員の授業準備をめぐる現状	3
3	授業で若手にやりがちだが、やらない方がいい事。	4
4	わかりやすい授業の準備に向けての気構え	6
5	授業の準備の仕方	8
6	自分の用意している板書ノート	9
7	授業準備不足が起きた場合<<工事中>>	10
8	授業の前後にしていること	10
8.1	私が実際、授業前にやっていること達の羅列	11
8.2	私が実際、授業後にやっていること達の羅列	11
9	理系相手の授業	12
10	線形や位相幾何の授業でしたこと。	13
10.1	線形の授業（工事中）	13
10.2	位相幾何の授業（工事中）	14
10.3	授業アンケートで書かれたこと	14
11	板書に関して	15
11.1	速く板書をするコツ	15
12	授業中で気にする事の羅列	16
13	試験問題作成について	17
14	授業をしながら、研究を進める方法論	17
15	採点について（2023.12月筆）	17
16	駄弁：授業中に雑談で私が口ずさむ警句(?)（2024.1月筆）	18
17	授業をこれまで10年間試してみても思った事（2023.12月筆）	18
17.1	私がしでかしたミス一覧	18
18	授業準備でのインターネットやAIの活用法（2025.1月加筆）	19